

ご神犬が空海を高野山へと導く

■丹生都比売神社と高野山

天野に1700年以上前より鎮まる丹生都比売神社。空海は高野山を開創するにあたり、当神社より神領地の一部を授かったと伝えられている。高野山開創縁起には、「空海は山中で白黒2頭の犬を連れて来た狩人に出会い、高野山に導かれた」とあり、その狩人が丹生都比売神社の主祭神・丹生都比売大神の御子である高野御子大神である。「空海さんはまず最初に神々に感謝し、壇上伽藍に御社を建てました。それが神仏融合の始まりといえます」と語るのは丹生晃市宮司。そんな導き犬物語を今に伝えるために、新たにご神犬として奉納されたのが紀州犬の「すずひめ号」。神犬が導いた丹生都比売神社と高野山の結びつきは1200年を経た今も進化し続けている。

丹生都比売神社(にうつひめじんじや)
住所/伊都郡かつらぎ町上天野230
電話/0736-26-0102

すずひめです!
16日は会いに来てね



上/社殿前に立つ丹生宮司。その後ろには高野山の僧侶が納めたお札が見える。下左/堂々たる姿の楼門は、国の重要文化財。下右/毎月16日の月次祭に公開される「すずひめ号」。まずは神妙に神前に参拝。

■紀州犬って?

すっきりと通った鼻筋に、ピンと立った耳につぶらな瞳。好奇心旺盛で優れた運動能力を持ち、飼い主に従順な性格で人気の犬種。紀伊半島を中心に飼育されてきた日本犬で国の天然記念物。



月次祭の日限定の御朱印は「すずひめ号」の押印付き。他にも絵馬や犬のおみくじも参拝客をお出迎え。



麓の町と高野山を繋ぐ



■ケーブルカーも54年ぶりに進化!

1930年に開通して以来、南海高野線の極楽橋駅と高野山駅を結び、参拝者や住民を運んできたが、今年3月に54年ぶりとなる4代目の新型ケーブルカーがデビュー。客車部分はスイスのメーカーが手掛け、車体は根本大塔をイメージさせる朱色に塗装。高野山への期待感を盛り上げてくれる。



シックな木目調の内装。

南海電気鉄道株式会社
電話/06-6643-1005



2015年にリニューアルした高野山駅。特徴的だった屋根の宝珠は今も健在。

山内移動にEVこやくん



高野山を身近に楽しみながら周遊でき、環境問題にも配慮した電気自動車のレンタルを開始。単なる観光地ではない高野山ならではのおもてなしと注目を集めている。

一般社団法人高野山観光協会
電話/0736-56-2468

進化する高野

守るべきは守り、変えるべきは変える。ただひと時も停滞することなく、そこにあり続ける、進化する高野。

何度でも再生する。それが高野山

■再建は信仰の証し

高野山の歴史は焼失と再建の歴史でもある。平安時代の994年には落雷でほとんどの建物が焼失し、その再建のために周囲の森林は著しく伐採されたという。鎌倉時代の最盛期には2000を超える堂舎が建ち並んでいたが、延焼による被害も大きかったという。しかしその都度堂舎が再建されたのは、空海への信仰心に他ならない。1813年には寺院の建築用材として特に重要なスギやヒノキ、コウヤマキなどを高野六木と設定し、寺院や伽藍の修繕用材以外の伐採は禁止された。

■中門再建への果てしない道

壇上加藍の入口に建つ中門は1843年に焼失して以来172年もの間、礎石だけが残されていた。今回8代目となる中門の再建を担ったのが尾上恵治さん。「最も大変だったのは、礎石の上に柱を直立させる光付けという作業。それだけに4ヶ月かかり、竣工日を考えて生きた心地がしませんでした。準備も含めると6年。高野山の木々は、みだりに伐採することはできない上に、柱に使えるような大きな木は深い山中にしかなく、運び出すのが大変でした。樹齢の倍以上持たせるのが職人の実力。そのための手間を惜しみませんでした」。それはまさしく宮大工の数百年後への「技」の手紙。職人たちの時間を越えた技比べでもある。



2015年に再建された中門。
今回、中門の屋根裏に米や塩の値段、東京大阪間の飛行機の運賃などのメモを残しました。数百年後の発見者がどんな顔をするのか、想像すると楽しみです。



株式会社尾上組の代表取締役である尾上さんは建築士であり、和歌山県世界遺産マスターでもある。高野山の案内人も務める。



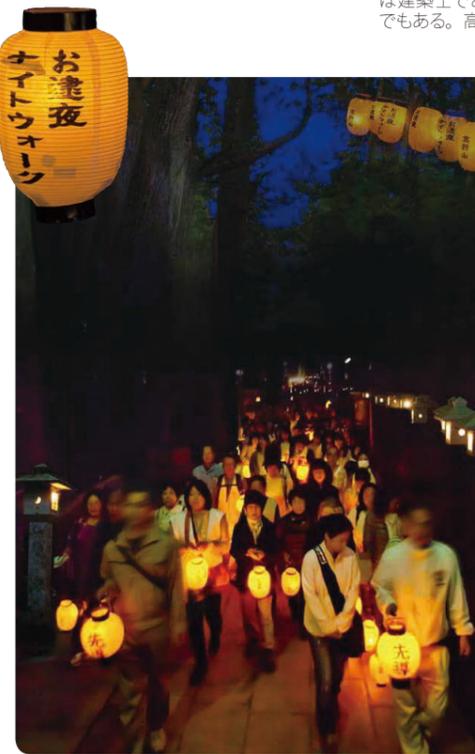
上/高野山を取り巻くのは資材用に植栽された木々。下/中門の柱のひとつ。礎石が平らでなかったため、光付けにかなりの時間がかかったという。

新たな魅力が生まれる

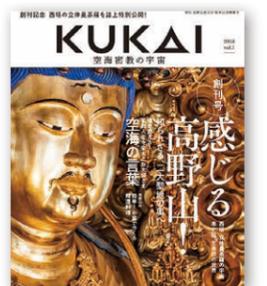
■お速夜ナイトウォーク

毎月21日は弘法大師・空海の縁日。その前日(毎月)の夜に行われるのが「心の癒し・お速夜ナイトウォーク」。奥之院の表参道入口、一の橋前に集合し、提灯を灯し奥之院参道を歩き、燈籠堂では特別に御法楽や法話を体験することができる。2011年から始め、毎月来るリピーターもいる。高野山の新しい魅力のひとつである。

お速夜ナイトウォーク(一般社団法人高野山観光協会)
住所/伊都郡高野町高野山359-3
電話/0736-56-2468



御廟橋から最も神秘的な燈籠堂を臨む



■金剛峯寺が雑誌を発行? 「KUKAI」 ~空海密教の宇宙~

総本山金剛峯寺が発行する高野山を紹介するビジュアル雑誌。通常なら撮影できない生身供の様子や西塔内部の写真など見所たっぷり。

発行元/総本山金剛峯寺
電話/0736-56-2014
次号発行は2019年9月下旬予定